

英国におけるオリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーについて (現地滞在期間：4/26-4/29)

商務情報政策局 サービス政策課

ニューヨークのバスにも、G R E A Tの文字が躍る

<http://www.greatbritaincampaign.com/#!/about>

ロンドンにおけるレガシーと地域の活躍

- 2012年に開催されたロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会においては、数多くのレガシーが確認され、先進国における大会の成功事例として有意義。
- 特に、ロンドン大会の効果を地域に波及させることが必須だと政府が認識していた。各地域で、政府レガシーと連動したプログラムが施行され、地域の特徴や課題を勘案したローカルレガシープランが策定された。

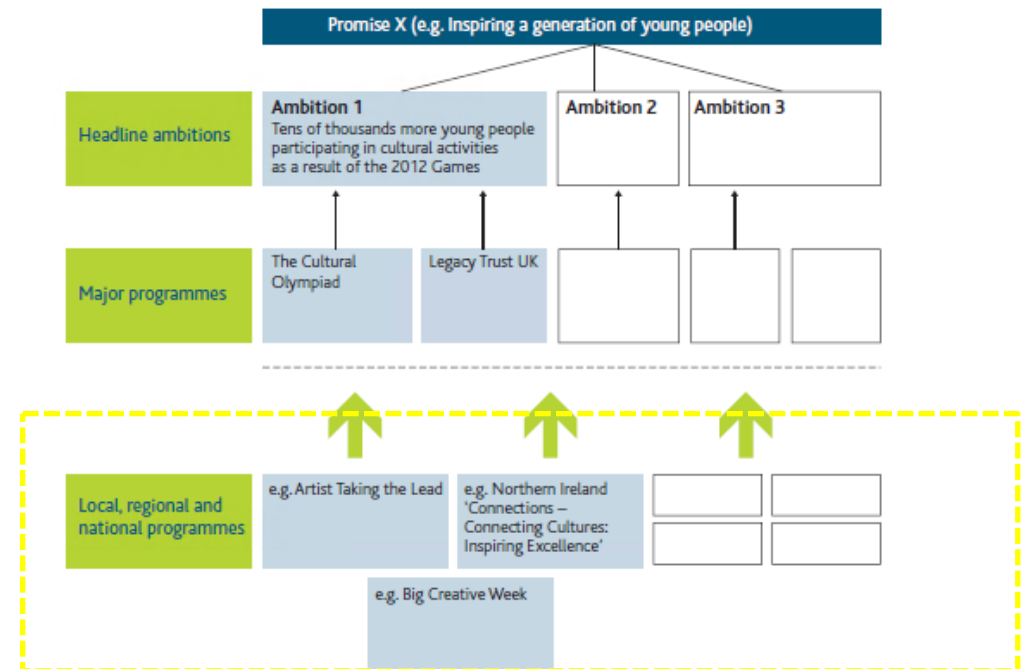
Introduction

The Olympic and Paralympic Programme

The 2012 Olympic Games and Paralympic Games are unmatched in their scale, scope and ambition. They will bring real economic and social benefits through: the regeneration of East London; improved skills and business opportunities; the development of sporting talent; and increased tourism. But the 2012 Games present an opportunity for the whole of the UK, and have the potential to deliver benefits across the country, with a lasting legacy of improvement and achievement.

The Games' unique nature means that they require an extraordinary degree of planning. We are actively shaping the legacy to spread the benefits across the whole of the UK instead of simply allowing the lion's share of the economic benefits to accrue to London.

➤ 各地のレガシープランが担うべき役割



ロンドン大会のレガシー①東ロンドンの再開発

取り組み内容

- ・ オリンピックパーク（会場、選手村）の建設
- ・ ウェストフィールドモールの開発（対内投資）

レガシー／成果

- ✓ 決められた期間、予算内での開発に成功
- ✓ 元選手村の住宅に、今では**6,000人以上**が暮らす
- ✓ 2014年4月にパークが再度開いてから**1000万人**が訪問



出張での学び

- ・ 汚染され、沼が多い地域であった東ロンドンの開発は第2次世界大戦以降何度も計画されたが、大会を契機とした政治的な協力もあり、「30年かかる」といわれていた開発が大会に完了。**「大規模プロジェクトを英国は手がけられない」という汚名を払拭し、国民の自信に。**周辺で大規模な開発が続いている。
- ・ イベントがない限り休日でもパークの広大な敷地に人はまばらだが、隣接する大衆向けショッピング・モールのウェストフィールドは混雑。東ロンドンの開発は、住民を巻き込み、暮らしを向上させることが一つの目標とされていたが、達成されたのではないか。再開発を機に、これまで東ロンドンに近寄らなかった人々が移住することも増えたそう。出張前は、会場の建設があまり大きなレガシーには見えなかったが、**開発前の東ロンドンを知る人は口を揃えて最大のレガシーだと言う。**



←2016年よりWestham United（サッカーチーム）の本拠地



→賑わうウェストフィールド・ショッピングモールは駅直結



←パーク内もその周辺も、開発が続く

※レガシー以下の報告書より抜粋

Before, during, and after: making the most of the London 2012 Games(DCMS)

Inspired by 2012: the legacy from the Olympic and Paralympic Games fourth annual report(Mayor of London)

London 2012 Delivering the economic legacy(UKTI)

参考 : Queen Elizabeth Olympic Park 全体図



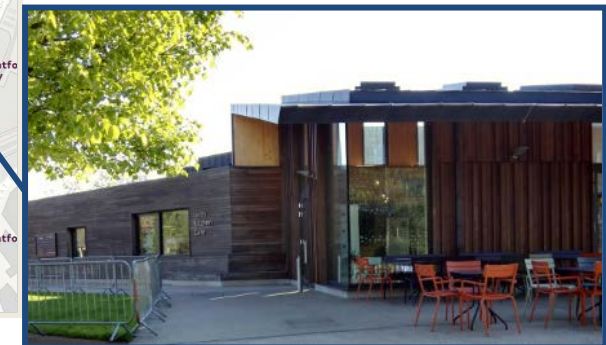
メディア/プレスセンターは起業家のための
イノベーションセンターに生まれ変わった



住民の住まい、カフェ、
バーベキュースペース



大会会場



ロンドン大会のレガシー②観光・ビジネスの推進（経済的レガシー）

取り組み内容

- CompeteFor（調達案件を検索できるサイト）、Supplier Recognition Scheme（提供者認証制度）
- 分野や対象国を明確にした、戦略的な直接投資・輸出戦略（HVO）の策定・推進
- GREATキャンペーンの展開
- テレワークの普及

レガシー／成果

- ✓ 2013年時点で**99億ポンド**の経済効果、高付加価値案件（HVO）獲得額は**15億ポンド**
- ✓ ソチ五輪／ロシアワールドカップで**60以上の契約**を獲得
- ✓ ODAから約1500、LOGから約750の調達案件が公開され、**約50%を中小企業が落札**
- ✓ スポンサーでなくてもオリパラへの物資供給等が認証される**Supplier Recognition Scheme**が実施され、中小企業へ新たなチャンスを創出
- ✓ **CompeteFor**には全国の中小企業や海外企業も登録し、英国に進出を希望する企業の発掘にも寄与
現在でもCompeteForは各種政府の調達や民間事業者が委託先を探すサイトとして活用
- ✓ 大会から4年たっても、ロンドンは人気観光地として最高人数の観光客を誘致



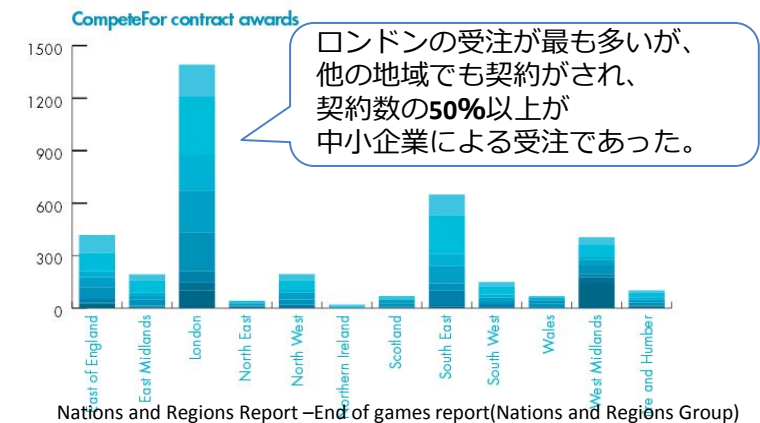
↑ 調達における注意点を
中小企業向けに解説



出張での学び

- CompeteForの普及には、システムの開発だけでなく、**地域密着で調達への参加方法の指導や調達の提案を行い、システムへの参加を促すチームの活躍**が大きかった。彼らはNations and Regions Group(NRG)と密に連携していた。
- テレワークは、ロンドンに拠点を持つ企業の経営者が大会期間中の営業について危機感を感じるようになった大会直前に普及。日本でも国民が自分の問題として考えるようになれば普及するのではと意見をいただいた。
- スポンサーとの明確な切り分けが必要な、提供者認証制度(Supplier Recognition Scheme)は、①大会後に活用すること ②実績ベースでPRすることの2つを条件として設定し、交渉に成功。

地域別CompeteFor契約件数



※レガシーは以下の報告書より抜粋

Before, during, and after: making the most of the London 2012 Games(DCMS)

Inspired by 2012: the legacy from the Olympic and Paralympic Games fourth annual report(Mayor of London)

London 2012 Delivering the economic legacy(UKTI)

Nations and Regions Report –End of games report(Nations and Regions Group)

ロンドン大会のレガシー③地域の巻き込み

取り組み内容

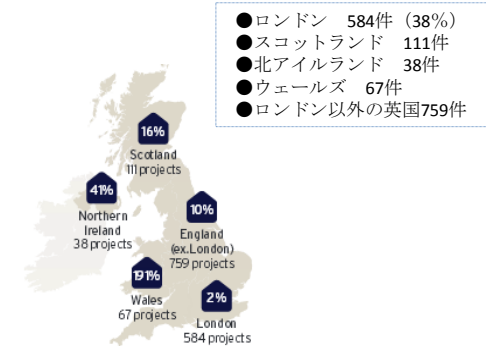
Nations and Regions Group(NRG)を中心とした、地域へのオリパラムーブメントの波及
NRGは社会、スポーツ、経済の3分野に集中し、全国の地域の活動を調整・推進

レガシー／成果

- ✓ **国民の95%**が1時間以内に聖火リレーを見に行けるようにルートを設計、
結果**1500万人**（人口の約4分の1）が聖火リレーを見学
- ✓ リージョンごとの**レガシープランの作成、プログラムの遂行**をNRGがサポート
- ✓ NRGには多くのスポンサー企業が協力し、草の根の活動をサポート
- ✓ 大会によって影響を受けた対英直接投資の**58%はロンドン以外の地域**で実施
- ✓ **450**のチームが事前キャンプに登録

対内直接投資

Inward Investment Report 2012/13(UK)



出張での学び

- 聖火リレーの成功がレガシーとして語られているが、その理由は、聖火リレーがメディア等で中継され、地域のPRの機会になったことと、聖火リレーを機に国民の心理的な大会準備が始まったことなど。
- 英国における自治体の役割や税制は日本とは異なる。地方は財源に乏しく、地域振興や観光促進は中央の仕事とされており、自治体毎に施策を行っているところは少ない。観光促進を含む内容でリージョンがレガシープランを作成したことは画期的。
- 地域への普及は、**中央の示す方針が明確であることが必須。**
地域は中央の示すレガシーに沿って各種プログラムを実施していた。

➤ 地域における観光収入の増加

	2012	2015	2015年 (対2008年比)
ロンドン	10,075	11,919	+47%
東部	773	960	+11%
中東部	361	434	+12%
北東部	427	576	+5%
北西部	887	1,211	+42%
南東部	361	434	+12%
南西部	971	1,056	+7%
中部（中西部）	578	816	+33%
ヨークシャー州	433	516	+14%
ウェールズ	346	410	+31%
スコットランド	1,401	1,695	+37%
北アイルランド	207	199	+12%

<https://www.visitbritain.org/nation-region-county-data>

(目的別) Total UK (収入) by Area

※レガシーは以下の報告書より抜粋

Before, during, and after: making the most of the London 2012 Games(DCMS)

Inspired by 2012: the legacy from the Olympic and Paralympic Games fourth annual report(Mayor of London)

London 2012 Delivering the economic legacy(UKTI)

Nations and Regions Report –End of games report(Nations and Regions Group)

Learning legacy Engaging the nations and regions of the UK

ロンドン大会のレガシー④スポーツの促進

取り組み内容 コミュニティレベルでのスポーツ・健康、エリートスポーツの促進

レガシー／成果

- ✓ 英国のオリンピック・パラリンピックの選手が学校や地域を訪問するようなイベントを**17,000以上開催**
- ✓ I O C研究センターとしての**ナショナルセンター**をロンドン、シェフィールド、東ミッドランドに建設。
- ✓ 英国ヘルスケアのノウハウを自国の企業とともに海外発信していく組織（**Healthcare UK**）を創設し、サウジアラビア、ブラジル、中国などへGREATキャンペーンと連動してP R。

出張での学び

- ロンドンで、コミュニティレベルの**スポーツ振興は一時的な効果**があったが持続しなかった。また、健康促進と交通緩和のために作られた自転車レーンは、一部では活用されているが、市街地から少し外れると細い道も多く、事故が多いそう。
- 地方都市の**シェフィールド**は大会を機に計画を加速させた。ここのナショナルトレーニングセンターは**地域住民による利用**をエリートによる利用と同時に考えた運用。シェフィールドは91年の大学オリンピックを機に設備も充実させ、95年には「シティオブスポーツ」にも認定されたが、単に運動を促進することが目的ではなく、**産学連携でスポーツを切り口としたヘルスケア分野のイノベーションを促進**しているイノベティブタウン。**民間資金・ノウハウの活用**に成功。



▼英国Institute of Sportや各種競技団体も入っているスポーツセンター、ラグビー場、バスケットアリーナ、アイススケート場、大学、民間企業のための研究施設、学校施設などが含まれる一帯の完成予想。

▼シェフィールドのナショナルトレーニングセンター。オリンピックと地元の小学生が同時に練習することも。



※レガシー以下の報告書より抜粋

Before, during, and after: making the most of the London 2012 Games(DCMS)

Inspired by 2012: the legacy from the Olympic and Paralympic Games fourth annual report(Mayor of London)

London 2012 Delivering the economic legacy(UKTI)

2020年に向けて

最大のレガシーは「国民の自信」

- 「イギリス人は大型プロジェクトのマネジメントが苦手と言われていた。しかしオリパラという一大プロジェクトを成功に導いたことにより、国民に『自分達もやればできる』という自信がついた」

関係者が一体となったレガシーづくりを

- 「日本からは多くの視察団が来るが、皆語るレガシーがばらばら」
- 日本にも太い幹が必要

レガシーの実現は具体的なブループリントから

- 「仮にオリパラがなかったとしても、東ロンドンの再開発は実施されていた。ただし、オリパラがなかったら実現には30年かかっていただろう」

国・地域間で連携したインバウンド誘致策を

- 英国においては、地域振興は中央政府の役割という認識。ロンドン・オリパラでも国が主体となって観光誘致、企業誘致の各種キャンペーンを実施した。
- 一方、近年はマンチェスター、シェフィールド等がロンドンをモデルとした広域行政体を組織し、国から一定の権限を委譲され、地域一丸となった地域振興戦略づくりに成功している。

国民を巻き込む施策はまだ間に合う

- 英国におけるレガシーの創出は誘致の段階から始まっていたが、テレワーク・地域住民の巻き込みなど、具体的に国民を巻き込まなければいけない施策は聖火リレーの時期から活性化。
- 時期も踏まえた、中長期の具体的な計画が求められる。